

論文) 女性の年齢と髪の高さに関する検討

石川文子¹⁾ 西山和平²⁾ 新井卓二¹⁾

抄録

女性の髪の高さは年齢により一定の傾向があると考えられているが、研究発表されているものは少ない。本研究は、美容室に来店されたお客様を対象に行った髪の高さとその理由についてのアンケートの結果から、女性の年齢と髪の高さの関連性とその理由を明らかにして論ずるものである。結果は49歳以前の年代では好みの高さは変化していき、現在の年齢の10年以内で髪型が変化していることが多い。そして50歳までには自分の好みの高さがおおよそ決まって、それ以降に変化は少ない。髪の高さを決める理由も毛髪の変化の悩みから決定するというよりは、他者からの印象変化や自己の心境の変化を期待して高さの決定をするほうが影響が強く、女性は働き方の変化や出産・子育てによる生活変化による時間の制約を受けることも示唆された。

キーワード：女性 髪の高さ 髪型 毛髪の変化 印象 ヘアケア

I. 緒言

現代、女性の髪の高さはさまざまである。腰より長い人もいれば、耳を覆わない短さの人もいる。しかし、日本において女性が他者から髪の高さについて何らかの批判を受けることなく、自由に選択できるようになったのは、昭和に入ってからである。大正中期までの女性は、江戸時代の封建制度の名残で制限の多い日本髪から明治維新以降に広まった束髪へという緩やかな変化の中で、長い髪であることを基本とした髪型が推奨された。これには国家による女性頭髪への介入と、女性は日本の伝統を担う者として、男性から評価される美しい黒髪を保つことを求められたジェンダー規範が影響していた(横山,2006)。

大正末ごろから昭和初期には機能性を求めて断髪する女性も注目されたが、批判の声も多く、一般家庭の女性には日本髪も依然として親しまれていた。その後、戦時体制が強化されると髪型選択の自由は失われた。第二次世界大戦後はコールドパーマネントウェーブの流行とともに短くカットしたカールの髪が好まれたり、憧れの映画女優の髪型に影響されたり、極端に短いセシルカットから後頭部で束ねた毛束を垂らすポニーテール、カールした長い髪を緩やかになびかせるバルドスタイルなど、さまざまな髪の高さを自由に選択していく時代へと変化した(公益社団法人日本理容美容教育センター,2023)(マサ,2003)。「髪型は時代の影響を受けやすく、流行にも左右され、職業を表すこともでき、美意識にもつながるため社会性を持ち合わせている」とも述べられている(新井・河

崎,2023,p.19)。

その後、時代に合わせた複数の高さや髪型に多様化していき、1980年以降は髪型にこそ男女の流行はあるが、髪の高さは男女のボーダーレス時代に入り、2000年代以降、髪型もボーダーレス化が進み、性差を感じさせない髪型や、自分らしさを表す手段となり、現在に至っている(公益社団法人日本理容美容教育センター,2023)(マサ,2003)。

山野美容芸術短期大学の研究でも2001年から2006年にかけてヘアスタイルの市場調査を行い、髪型の変化を考察している(山野,2002)(戴,2003)(牧野,2004)(山本,2005)(下家,2006)(下家,2007)。

また、毛髪の機能として「毛髪は死んだ細胞の集まりである。にもかかわらず、体表からの熱が逃げるのを防ぎ、物理的・化学的・刺激や太陽の紫外線・輻射熱から体を守り、さまざまな色や模様を生みだし、時にはフェロモンや匂い物質の拡散に関わりコミュニケーションの一助となる」と述べられている(松崎他,2003,p.1)。中でも頭毛は長い成長周期を持ち、顔の周りを覆っていることから、顔の印象や人の印象に関連して心理学の分野で数少ないが研究されている。たとえば、髪色と高さが第一印象に及ぼす影響として他者に与える印象の違いがあることを明らかにした研究(森岡,2015)やヘアスタイル選好とパーソナリティ特性の関連について検討し、前髪の有無、レイヤーの有無、髪の高短により、パーソナリティや価値観の一部の違いがあることを明らかにしている研究(九島,2019)、また男性の髪の高短による印象の要因を抽出し、印象の相違があることを明らかにした研究(金子・門脇,2001)などがある。これらは髪型を自由に選択していく時代に変化したことで、他者からの

1) ISHIKAWA Ayako ,ARAI Takuji 山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鍵水 530

2) NISHIYAMA Kazutoshi
株式会社ケンジ
連絡先:〒251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋 1-14-5KG ビル

印象や自己を表す印象を選び取る一因に髪型が関連していることが推察されるが、いずれの研究も対象にしている年代が大学生で幅広い年代ではない。

一方で、アメリカの実験社会心理学の分野では、幅広い年代を対象として髪の高さと年齢の間には有意な相関関係があり、若い女性は年配の女性よりも髪が長い傾向があることが示され、髪の高さは女性の健康と相関関係があり、女性の毛髪が生殖能力を示す可能性があることを示されている (Verlin・David・Rebecca,2001)。

国内ではアメリカの先行研究のように明文化されていないが、いくつかのインターネット調査の結果や雑誌の特集の中では、ショートは年代が上がるにつれて多くなり、年代が下がるにつれて少なくなることが述べられている (リビングくらし HOW 研究所,2014) (インターワイヤード株式会社,2009) (Oggi.jp,2022)。

自由に髪型選択ができる時代となっても、このように年代により髪の高さに特定の傾向がみられるのは、株式会社 RAINBOW SHOWER (2022) の調査では、髪を短くしたきっかけとして「手入れが楽」「ヘアケアの問題」「イメージチェンジ」「長いと邪魔」などが挙げられている。これは生活面での影響や他者からの印象を意識した理由である。また、インターネットで女性の年齢と関係した髪の高さを調べると毛髪の変化や悩みに関する情報が多く確認できる。なかでも複数のアンケートで確認できる悩みは「くせ毛」「パサつき」「薄毛」「ボリューム」などが多く挙げられている (株式会社 elvin,2020) (髪コト編集部,2023) (アデランス,2017) (Kao ヘアケアサイト,2023) (All About 編集部,2006)。このことから悩みを解消するために髪の高さを決めているのではないかと考えられる。

以上のことから、女性の年齢と髪の高さの関係には一定の理由があることが推察される。本研究では、日本では少ない女性の年齢と髪の高さの関連性とその理由について調査することを目的とする。

II. 方法

アンケートの対象者は、ケンジグループの美容室にご来店いただいた女性のお客様で、アンケート回答ができる全年代の方を対象として、47名から回答をいただいた。調査期間は2023年1月26日から3月20日にかけて Google Forms によるアンケート調査を行った。対象のケンジグループは1971年神奈川県湘南にて創業され、神奈川県内を中心に東京、福岡を合わせ

て133店舗 (2022年12月現在) を展開している。

アンケート項目は①「年代」、②「現在の髪の高さ」、③「いつから現在の髪の高さにしているか」、④「現在の高さにした理由」、⑤「④以外の理由」の場合の自由記述、⑥現在の髪の高さによる「生活満足度」、⑦髪型に関する自由記述、の7問とした。調査項目は、Kao ヘアケアサイト (2023) の「加齢による毛髪悩みの変化」と、All About (2023) による「女性の髪の高さアンケート」の調査を参考にした。尺度は、小数点第3位を四捨五入した。統計手法は、探索的因子分析 (最尤法、バリマックス法) で行った。抽出された因子と髪の高さの関係を検討した。

分析対象は、「年代」と、現在の「髪の高さ」を下記の表1、「長さ別の人数と比率」を表2に示す。髪の高さについては、「女子大学生のヘアスタイル選好とパーソナリティの関連」 (九島,2019) と、複数のヘアブックを参考にした。表中ではベリーショート (耳の出る長さ) はVS、ショート (耳が隠れる長さ) はS、ミディアム (肩につく長さ) はM、ロング (肩下の長さ) はL、スーパーロング (胸下の長さ) と表記する。

表1 現在の長さ

| 全体 | VS | S | M | L | SL | 計 |
|---------|----|----|---|----|----|----|
| 15歳～19歳 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 20歳～24歳 | 1 | 3 | 1 | 1 | 0 | 6 |
| 25歳～29歳 | 3 | 1 | 0 | 3 | 0 | 7 |
| 30歳～34歳 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 35歳～39歳 | 0 | 4 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 40歳～44歳 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 45歳～49歳 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 |
| 50歳～54歳 | 0 | 6 | 0 | 1 | 0 | 7 |
| 55歳～59歳 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 5 |
| 60歳～64歳 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 65歳～69歳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 7 | 21 | 5 | 11 | 3 | 47 |

表2 長さ別の人数と比率

| 長さ | 人数 | 比率 |
|------------------|----|-------|
| ベリーショート (耳の出る長さ) | 7 | 14.9 |
| ショート (耳が隠れる長さ) | 21 | 44.7 |
| ミディアム (肩につく長さ) | 5 | 10.6 |
| ロング (肩下の長さ) | 11 | 23.4 |
| スーパーロング (胸下の長さ) | 3 | 6.4 |
| 合計 | 47 | 100.0 |

「年代」については14歳以下と、15歳～79歳までを5歳ごと、80歳以上の全15区分とした。女性の生活の状況変化が起きやすい出生に関して厚生労働省(2023)の「年齢階級別出生率」と、更年期と言われる平均閉経年齢50歳の前後5年間(日本産婦人科学会,2018)、また、毛髪の変化が起こる年代として「加齢にともなう髪の変化と悩み」に関する調査(Kaoヘアケアサイト,2023)を参考に、10歳ごとの年代ではなく、少し幅の狭い年代の必要を考え、5歳ごとの年代とした。14歳以下と70歳以上は回答人数が0であり、「50歳～54歳」の7名から「15歳～19歳」

と「65歳～69歳」の各1名までの分布で年代の平均は40.09歳であった。

「現在の髪の長さ」は表2に示したようにショート(S)が一番多く21名(44.7%)、スーパーロング(SL)が一番少なく3名(6.4%)となり、ショートの割合はインターワイヤード株式会社(2009)が行ったヘアスタリングに関するアンケートで40代女性のショートヘアの割合と同程度であった。また、ベリーショートとショートを合わせて59.5%と半数以上が短い髪形となった。

表3 いつから現在の長さになっているか

| 全体 | VS | S | M | L | SL | 計 |
|---------|----|----|---|----|----|----|
| 14歳以下 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 15歳～19歳 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| 20歳～24歳 | 1 | 4 | 2 | 2 | 1 | 10 |
| 25歳～29歳 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 5 |
| 30歳～34歳 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| 35歳～39歳 | 2 | 5 | 2 | 2 | 0 | 11 |
| 40歳～44歳 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| 45歳～49歳 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 50歳～54歳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 55歳～59歳 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 60歳～64歳 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 65歳～69歳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 7 | 21 | 5 | 11 | 3 | 47 |

表5.現在の長さにした理由

| | |
|--------------------|------|
| A 好みの長さのため | 1.72 |
| G ヘアケアが簡単のため | 2.04 |
| H ヘアケアにとれる時間が少ないため | 2.21 |
| [B.イメージチェンジのため] | 2.53 |
| [J.毛量が多いため] | 2.60 |
| [F.心境の変化(気分転換)] | 2.87 |
| [N.髪の傷みが気になるため] | 2.91 |
| [K.くせ毛のため] | 3.09 |
| [L.ツヤがなくなったため] | 3.26 |
| [C.好きな人物を参考にしたため] | 3.34 |
| [D.ヘアアレンジが多くできるため] | 3.36 |
| [E.すすめられたため] | 3.38 |
| [M.ハリ・コシがなくなったため] | 3.43 |
| [I.毛量が減ったため] | 3.70 |

表4 現在の年代と現在の長さを始めた年代の関係

| いつから現在の長さ 現在の年代 | 14歳以下 | 15歳～19歳 | 20歳～24歳 | 25歳～29歳 | 30歳～34歳 | 35歳～39歳 | 40歳～44歳 | 45歳～49歳 | 50歳～54歳 | 55歳～59歳 | 60歳～64歳 | 計 |
|--------------------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----|
| 15歳～19歳 | 0 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| 20歳～24歳 | 0 | 1 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 |
| 25歳～29歳 | 0 | 2 | 3 | 2 | — | — | — | — | — | — | — | 7 |
| 30歳～34歳 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | — | — | — | — | — | — | 3 |
| 35歳～39歳 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | — | — | — | — | — | 7 |
| 40歳～44歳 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | — | — | — | — | 5 |
| 45歳～49歳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | — | — | — | 3 |
| 50歳～54歳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | — | — | 7 |
| 55歳～59歳 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | — | 5 |
| 60歳～64歳 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 65歳～69歳 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 2 | 5 | 10 | 5 | 4 | 11 | 4 | 4 | 0 | 1 | 1 | 47 |

III. 結果

「いつから現在の長さになっているか」を表3、「現在の長さを始めた年代」を表4、「現在の長さにした理由」を表5に示す。

「いつから現在の長さになっているか」の年齢区分は、「年代」については14歳以下と、15歳～79歳までを5歳ごと、80歳以上の全15区分とした。「現在の長さにした理由」については、5段階評価で、1とても当てはまる、2やや当てはまる、3どちらともいえない、4あまり当てはまらない、5まったく当てはまらないとした。

「いつから現在の長さになっているか」については、「20歳～24歳」10名と「35歳～39歳」11名が多く、「現在の長さ」での各年代の分布の偏差があまり見られなかった様子からは少々変化がある。変化のあった「20歳～24歳」と「35歳～39歳」の中で髪の長さがショートの方は「20歳～24歳」の4名や、「35歳～39歳」の5名を中心として、今回の対象の平均年齢40.9歳より下の年代に15名と多い。「50歳～54歳」以降の年代では、ショートは1名であるが、現在の年齢が「50歳～54歳」以降にはショートが9名いる。ロングも「50歳～54歳」以降の年代は1名であるが、現在の年齢が「50歳～54

歳」以降には3名いる。スーパーロングは髪の長さから10年以上同じ長さでいることが分かった。

多くの女性は現在と同じ年代もしくは、10年前の年代の間で現在の長さを選択している。現在「50歳～54歳」の年代は「30歳～34歳」と「35歳～39歳」にも同程度分布がみられ、「55歳～59歳」の年代も「35歳～39歳」から「45歳～49歳」に同程度の分布があるため、15～20年前から現在の長さを選択している場合もみられた。

「現在の長さにした理由」としては「好みの長さのため」が1位となり、多くの人が自分の好みの長さであることを重視している。次に2位は「ヘアケアが簡単のため」、3位が「ヘアケアにとれる時間が少ないため」となり、ヘアケアの時間や簡単さも長さの選択で重視されていた。

次に探索的因子分析（最尤法、バリマックス法）をした結果、4因子が見つかった。

第1因子は、「F.心境の変化（気分転換）」「B.イメージチェンジのため」「C.好きな人物を参考にしたため」の3つの項目が選ばれており、自分や他者への心理に関係することから、「心理」因子と命名した。第2因子は「L.ツヤがなくなったため」「M.ハリ・コシがなくなったため」「N.髪の傷みが気になるため」

表6 探索的因子分析

| 回転後の因子行列 ^a | | | | | |
|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
| 調査項目 | 因子負荷量 | | | | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| F.心境の変化（気分転換） | 0.928 | -0.022 | -0.102 | -0.106 | 0.087 |
| B.イメージチェンジのため | 0.749 | -0.047 | 0.012 | -0.111 | 0.110 |
| C.好きな人物を参考にしたため | 0.572 | 0.294 | 0.230 | 0.126 | 0.231 |
| L.ツヤがなくなったため | 0.096 | 0.974 | 0.112 | 0.170 | 0.011 |
| M.ハリ・コシがなくなったため | -0.126 | 0.717 | -0.146 | -0.055 | 0.307 |
| N.髪の傷みが気になるため | 0.097 | 0.490 | 0.086 | 0.371 | -0.005 |
| G.ヘアケアが簡単のため | 0.019 | -0.003 | 0.824 | 0.281 | 0.061 |
| H.ヘアケアにとれる時間が少ないため | 0.031 | 0.043 | 0.813 | 0.055 | -0.098 |
| J.毛量が多いため | 0.011 | 0.072 | 0.172 | 0.897 | -0.400 |
| K.くせ毛のため | -0.088 | 0.128 | 0.153 | 0.598 | 0.083 |
| A.好みの長さのため | -0.077 | 0.042 | -0.007 | 0.390 | 0.228 |
| I.毛量が減ったため | 0.226 | 0.410 | 0.121 | 0.121 | 0.589 |
| D.ヘアアレンジが多くできるため | 0.249 | 0.026 | -0.276 | 0.021 | 0.492 |
| E.すすめられたため | 0.385 | 0.128 | 0.333 | -0.073 | 0.438 |

因子抽出法: 最尤法, 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法^a

など、毛髪の悩みとして挙げられる項目から「毛髪変化」因子と命名した。第3因子は、「G.ヘアケアが簡単なため」「H.ヘアケアにとれる時間が少ないため」の2つで、ヘアケアに関する項目であることから、「ヘアケア」因子と命名した。第4因子は、「J.毛量が多いため」「K.くせ毛のため」の元々の毛の状態による項目であることから、「素髪」因子と命名した。

IV. 考察

今回の対象群では、現在の年代が50歳以降の対象者15名のうち、「いつから現在の髪の長さになっているか」では、50歳以降と回答したのは2名である。つまり50歳以降の年代はあまり髪の長さを変化させることはなく、50歳以前に現在の長さを選択していた傾向があることがわかる。なかでも50歳以降に新たにショートにしたのは1名であるが、現在の年齢が50歳以降のショートは9名であることから、50歳を超えて新たに髪を短くする人は少なく、それ以前にショートの長さに落ち着くことがうかがえる。ロングも50歳以降にロングになっているのは1名であることから50歳を超えて新たにロングにする場合は少ないことがうかがえる。また、「現在の長さにした理由」の第1位が「好みの長さ」であることを考えると、49歳以前の年代では好みの長さは変化していき、現在の年齢の10年以内で髪型が変化していることが多い。そして50歳までには自分の好みの長さがおおよそ決まって、それ以降に変化は少ないことが推察される。ただし、今回の第1位の「好みの長さ」は、抽象的な表現として捉えられ、ヘアケアや地毛の状態が関係して「好みの長さ」になっていることも考えられる。

それに比べて2位の「ヘアケアが簡単なため」と、3位の「ヘアケアにとれる時間が少ないため」は明確な理由である。今回の対象はベリーショートとショートを合わせて59.5%と半数以上が短い髪形であった。このことは、「現在の長さにした理由」の2位と3位になったことに関係し、ヘアケアの短さや簡単さも髪の長さを決める際には重要なことがうかがえる。毛髪が短いと洗髪の時間や髪を乾かす時間は短くなり、長い毛髪より外界にさらされている期間も短いため、長い毛髪よりヘアケアが容易であることが推察される。長年、美容師としてお客様に携わってきた西山も、年齢が上がってきて髪を短くする理由として、お手入れが楽になるからだと言っている。ロングでは一束で結んだり、ストレートで下ろすなどの手間がかからないスタイリングでは、動きが少ないと感じるが、ショートでは分け目を変えたり、耳にかけるなどの手間の少

ないスタイリングで大きく動きが出る。これはショートのほうが、美容師の技術によってお客様それぞれに合わせたカットとなりやすい特徴があるためである。

「現在の長さにした理由」の因子分析においては、第1因子「心理」因子、第2因子「毛髪変化」因子、第3因子「ヘアケア」因子、第4因子「素髪」因子が見つかった。この結果は、アンケートの「現在の長さにした理由」の結果と異なっており、アンケートで理由の第1位である「好みの長さ」は抽出されなかった。第1因子は第6位の「心境の変化（気分転換）」の負荷量が多く、次いで第4位の「イメージチェンジのため」「好きな人物を参考にしたため」が3番目となり、自己の気持ちや他者からの印象の変化を期待していることから、髪の長さは心理面と関連があることが伺える。西山によると、カットをすることで他者からの印象が良くなったお客様は経験上多くいて、特に50～60代のお客様は自分に似合う髪型であることとともに、清潔感を求める傾向がある。この年代はヘアケアを怠ると生活に疲れているように見えやすい。また、若い頃はアイドルや1980年代後半のバブル経済の影響で、流行している髪型を皆で真似をすることが多かったが、年齢を重ねる中で、印象の変化を希望する際に友人や芸能人などの髪型を参考に短くすることはありつつも、自分に似合う髪型を求められることが多いということである。第2因子は第9位の「ツヤがなくなったため」の負荷量が多く、次いで第13位の「ハリ・コシがなくなったため」、3番目は第7位の「髪の傷みが気になる」であることから、加齢やホルモンバランス、環境変化などが髪質に影響を与え、髪質が変化することによる要因である。第3因子になって、第2位の「G.ヘアケアが簡単なため」と、第3位の「H.ヘアケアにとれる時間が少ないため」となり、「現在の長さにした理由」の上位のヘアケアが要因として表れた。第4因子は第5位の「毛量が多いため」の負荷量が多く、次いで第8位の「くせ毛のため」となり、素の毛髪の状態も長さを決める要因として表れた。

以上のことから、今回の対象の女性が髪の長さを決定する際は、毛髪の変化の悩みから決定するというよりは、他者からの印象変化や自己の心境の変化を期待して長さを決定するほうが、影響が強いと言える。厚生労働省の「令和3年の働く女性の状況」資料において女性の平均勤続年数は正社員・正職員で10.2年、正社員・正職員以外の女性は8.1年である。新卒での就職を考えると、20代は社会人に変化する年代となり、他者からの印象変化や自己の心境の変化を期待して

(心理要因/第1因子) 髪の色を選ぶことが示唆される。そして、社会人となった20代から、平均勤続年数が過ぎる30代で転職による環境変化や出産による雇用の変化や退職などにより、時間の制約(ヘアケア要因/第3因子)やホルモンバランスの変化(毛髪変化要因/第2因子)により髪の色が変わる傾向がある。また、出産した女性の場合、厚生労働省の令和3年度「出生に関する統計」の中で母の出生時平均年齢は30.7歳(第1子)から33.8歳(第3子)であるが、国の子育て支援の1つである児童手当が中学卒業までであることや、一般の人が子育て期間の中で10歳くらいまでは親子が行動をともにする期間と捉えていること(All About, Inc, 2017)(神戸新聞NEXT, 2023)から、その後10年程度は主な子育て期間と考えることができ、今回の平均年齢の40.07歳は子育て期間中であると推察される。30代から40代にかけて働き方の変化や子育てによる生活変化が起こりやすい年代とすることができ、時間に制約があることが推察される。理由の自由記述欄にも「出産を機に自分のヘアケアをする時間が減ったため」との記載があったことから、ヘアケアの長さや簡単さも年代と髪の色との関係においては影響を及ぼすと示唆される。

本研究の限界として、対象地域が主に神奈川県内であることと、期間が2023年1月から3月であることから、対象が47名と人数が少ないという点があげられる。しかし、年齢の分布が10代から60代までと幅広く取れたこと、髪の色とその理由についての分析は他の県でも参考になる調査結果であった。

ヘアスタイルの流行は常に変化し続けている。その中でも、髪の色による年齢による変化の傾向や、女性が髪の色を決めるときの理由を分析することは、年齢を重ねたときのヘアスタイルに対する理解に関係する。長年美容師として活躍している西山も人の印象に関係するヘアカラーについて白髪や黒髪、ハイライトと言われるカラーリングなどの世間のイメージの変化やカラーリング技術の向上による多様なヘアカラーが多くなり、好きなヘアカラーを選ぶという意識の変化が広がっていることで、社会の変化を感じている。女性がいつでも美しく、その人らしくいるために、美容師がパートナーとして知識を活かしていくことが重要である。そのためにも、今後、地域の拡大や、人数を増やして行うことも検討していきたい。

謝辞

本調査を進めるにあたり、株式会社ケンジグループの各店舗スタッフの方々、採用コンシェルジュ 中松莉沙様、及び調査集計においては山野美容芸術短期大学 大滝郁実様にご協力いただき、感謝申し上げます。

利益相反の有無

なし

参考文献

- 1) 横山 友子 女性の頭髪の清潔について：髪をめぐるジェンダー化された下位文化の形成とその身体化. 大阪府立大学人間科学博士論文.3.16.4-7.2006
- 2) 公益社団法人 日本理容美容教育センター：文化論. 静和堂 2023
- 3) マサ大竹：ヘアスタイリングの過去・現在・未来, 日本化粧品技術者会誌.37.1.3-9.2003
- 4) 新井卓二 河崎峰子：入門ビューティービジネス. 1-2.19.同友館.2023.
- 5) 山野愛子ジェーン 他：学生による2001年ヘアスタイルの市場調査：美容教育的効果と問題点. 山野研究紀要.10.1-14.2002
- 6) 戴 美瑩 他：学生による2002年ヘアスタイルの市場調査. 山野研究紀要.11.35-42.2003
- 7) 牧野 早絵 他：学生による2003年ヘアスタイル市場調査. 山野研究紀要.12.63-72.2004
- 8) 山本 恵子 他：学生による2004年ヘアスタイル市場調査. 山野研究紀要.13.77-86.2005
- 9) 下家 由起子 他：2005年東京ヘアスタイル市場調査. 山野研究紀要.14.23-30.2006
- 10) 下家 由起子 他：2005年東京ヘアスタイル市場調査. 山野研究紀要.15.75-82.2007
- 11) 松崎貴 他：最新の毛髪科学. フレグランスジャーナル社, 2003
- 12) 森岡陽介：髪色と長さが第一印象に及ぼす影響. 日本心理学会大会発表論文集.2015
- 13) 九島紀子：女子大学生のヘアスタイル選好とパーソナリティの関連. 立正大学心理学研究年報. 10 9-20, 2019
- 14) 金子智栄子, 門脇幹雄：PA35 外見の印象:髪型が性格のイメージに及ぼす影響. 日本教育心理学会総会発表論文集 43,p35, 2001
- 15) Verlin B. Hinsz, David C. Matz, Rebecca A. Patience : Does Women's Hair Signal Reproductive Potential?, Journal of Experimental Social Psychology, Volume 37, Issue 2, March 2001, Pages 166-172
- 16) 株式会社リビング暮らし HOW 研究所, 【女性】美容室についてのアンケート (2014年/全国)
<https://www.kurashihow.co.jp/markets/7020/> (2023.10.31)

- 17) インターワイヤード株式会社, 『ヘアスタイリング』に関するアンケート,2009
<https://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2009/091101/>
 (2023.10.31)
- 18) Oggi.jp(小学館 Oggi 公式ウェブサイト), 髪を切る頻度は? 髪の長さは? 100 人の女性に髪を切るタイミングやきっかけを聞きました【1 回にかかる平均金額も】 <https://oggi.jp/6831145>
 (2023.10.31)
- 19) 株式会社 RAINBOW SHOWER, 「中高年女性の髪型事情」, 2022, <https://www.atpress.ne.jp/news/297142> (2023.10.31)
- 20) 株式会社 elvin : 「大人の女性の髪の悩み」.2020.9
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000061102.html>
 (2023.10.31)
- 21) 髪コト編集部. : 女性も不安! 20 代女性~60 代以上の年齢・年代別髪の毛に関する悩みの傾向と対策
<https://www.mens-svenson.net/kamikoto/others/femalehairloss/2060woman-hair-problem/> (2023.11.20)
- 22) アデランス : ヘアケアに関する意識調査.
https://www.aderans.co.jp/news/detail/170919_01.html
 (2023.11.20)
- 23) Kao ヘアケアサイト : 加齢にともなう髪の変化と悩み,
<https://www.kao.com/jp/haicare/hair/4-1/> (2023.11.20)
- 24) All About 編集部. 髪のココがイヤ! 女性の髪の悩みアンケート [女性の薄毛・抜け毛], <https://allabout.co.jp/gm/gc/5493/2/>
 (2023.11.20)
- 25) 日本産婦人科学会 : 更年期について,
https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=14 (2023.11.20)
- 26) 厚生労働省 : 令和 3 年の働く女性の状況【修正】,
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujou/dl/21-01.pdf> (2023.11.20)
- 27) 厚生労働省 : 令和 3 年度「出生に関する統計」の概況,
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyuu/syusyo07/dl/gaikyou.pdf> (2023.11.20)
- 28) 内閣府 : 児童手当制度のご案内: 子ども・子育て本部,
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/jidouteate/annai.html>
 (2023.11.20)
- 29) 株式会社オールアバウト (All About,Inc.) : 100 年生きたとしても子育ての期間はわずか 10 年ほど!?,2017,
<https://allabout.co.jp/gm/gc/471161/> (2023.11.20)
- 30) 神戸新聞 NEXT : 「子育てがラクになった」のは子どもが何歳のころ? 10 歳ごろからママたちが感じ始めた「時間のゆとり」
<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/omoshiro/202108/0014591986.shtml> (2023.11.20)

英語タイトル

Considerations regarding a woman's age and hair length

提出日 : 2023/12/26